

麴町教会「ミサがわかるセミナー」2025-2026 シリーズ  
《年間テーマ》

**旅する神の民とミサ～喜びと希望を共に！**

**第1回 神の民としてささげる典礼**

2025年5月18日（日）石井祥裕

はじめに) 「巡礼」ということば

\* 日本語「巡礼」の最古文献=天台宗の高僧円仁(794~864)『入唐求法巡礼行記』

巡礼⇒複数の聖所を「巡る」というイメージ、遍路

\* 教会用語(ラテン語) 巡礼=ペレグリナツィオ(peregrinatio) 巡礼者=ペレグリヌス(peregrinus)

\* 元来の意味 ペレグレ(peregre)・ペレグリ(peregri)→外国で、外国へ、外国から」等を意味

⇒ペレグリナツィオ=外国旅行や外国滞在、ペレグリヌス= ある土地に一時的に寄留する外国人

\* 元来の意味の新約聖書での用例

ヘブライ書11・13「この人たちは皆、信仰を抱いて死にました。約束されたものを手に入れませんでした。はるかにそれを見て喜びの声をあげ、自分たちが地上ではよそ者であり、仮住まいの者であることを公に言い表したのです」。

一ペトロ書2・11「愛する人たち、あなたがたに勧めます。いわば旅人であり、仮住まいの身なので、魂に戦いを挑む肉の欲を避けなさい。」 (引用太字 講師 以下同)

「仮住まいの者・身」=ギリシア語「パレエピデーモス」⇒ラテン語訳「ペレグリヌス」

\* 6世紀より 聖地への巡礼=ペレグリナツィオ)、巡礼者=ペレグリヌス)

\* 参考 ギリシア語「パロイコス」(旅人・寄留者)「パロイキア」(外国人として住むこと=寄留すること) ⇒ ラテン語パロキア(parochia) = 「小教区」 元来の意味は「寄留所」

\* 根底にある意識=「キリスト者の国は天にあるという自覚」

フィリピ書3・20-21「20しかし、わたしたちの本国は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主として来られるのを、わたしたちは待っています。21キリストは、万物を支配下に置くことさえできる力によって、わたしたちの卑しい体を、御自分の栄光ある体と同じ形に変えてくださるのです。」

▶巡礼⇒神の民とは地上においては仮住まいするという意味で旅人であることを身をもって知る実践

## 1 神の民であることと典礼

### (1) 『典礼憲章』の二つの箇所

『典礼憲章』2「教会の神秘のうちにある典礼」 (太字 講師 以下同)

典礼によって、なかでも感謝の祭儀の神聖ないけにえにおいて「われわれのあがないのわざが行われる」ので、典礼は、キリストの神秘と真の教会のまことの本性を信者が生き方をもって表し、他の人々に明らかにするためにきわめて有益である。この教会は、人間的であると同時に神的であり、見えるものでありながら見えないものを備え、活動に熱心でありながら観想に専心し、世の中にありながら旅することを特性としている。しかも、教会においては、人間的なものは神的なものに、見えるものは見えないものに、活動は観想に、そして現在はわれわれが探し求める来たるべき都(ヘブライ13・14参照)に向けられ、従属している。したがって、典礼は教会のうちにある人々を日々、主における聖なる神殿、聖霊における神の住まいに築き上げ(エフェソ2・21-22参照)、キリストの満ちあふれる豊かさに達するまで成長させるのである(同4・13参照)。同時に典礼は、キリストをのべ伝えるために彼らの力を驚くほど強め、こうして外にある人に対しては、諸国民の中に掲げられたしるしとして教会を示し(イザヤ11・12参照)、散らされた神の子たちがこのしるしのもとに一つに集められ(ヨハネ11・52参照)、一つの群れ、一人の牧者となるのである(同10・16参照)。

『典礼憲章』8「地上の典礼と天上の典礼」

地上の典礼において、われわれは、天上の典礼を前もって味わってこれに参加している。天上の典礼は、旅するわれわれが目指す聖なる都エルサレムにおいてささげられており、そこにはキリストが、聖所と真の幕屋の奉仕者として神の右に座しておられる（黙示録21・2、コロサイ3・4、ヘブライ8・2参照）われわれは、天のあらゆる軍勢とともに主に栄光の賛歌を歌い、聖人たちの記念を尊び、彼らの交わりにあずかることを望み、われわれのいのちであるキリストが現れ、われわれもキリストとともに栄光のうちに現れるときまで、救い主、われわれの主イエス・キリストを待ち望むのである（フィリピ3・20、コロサイ3・4）。

⇒『教会憲章』第1章「教会の神秘について」、第2章「神の民について」に詳述

- ▶世の中にありながら、聖なる都を目指して旅する民
- ▶世の中にありつつ、キリストの神秘と教会の真の本性を他の人々にも示す  
→神の民であることの自覚→典礼の国語による実践の理由

## (2) 新約聖書から

主の晩餐の制定における「契約」の考え

一コリント11：23-26

23わたしがあなたがたに伝えたことは、わたし自身、主から受けたものです。すなわち、主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、24感謝の祈りをささげてそれを裂き、「これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。25また、食事の後で、杯も同じようにして、「この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。26だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。

▶契約ということのうちに、神の民が新たにつくられることが含蓄されている

キリストによる新しい契約を受けた神の民の始まり

(旧約の民：出エジプト記19・5-6「5今、もしわたしの声に聞き従い、わたしの契約を守るならば、あなたたちはすべての民の間であってわたしの宝となる。世界はすべてわたしのものである。6あなたたちは、わたしにとって祭司の王国、聖なる国民となる。」)

新約の民：一ペトロ2・9「しかし、あなたがたは、選ばれた民、王の系統を引く祭司、聖なる国民、神のものとなった民です。それは、あなたがたを暗闇の中から驚くべき光の中へと招き入れてくださった方の力ある業を、あなたがたが広く伝えるためなのです。」

▶神の民の系譜を引き継ぐ新たな民の成立 神のわざを広く伝える使命

## (3) 『十二使徒の教え』におけるエウカリスティアの祈り（奉献文）（2世紀頃）

9 エウカリスティア〔聖餐〕については、次のように感謝の祈りを捧げなさい。初めに杯について。「私たちの父よ。あなたの僕〔子〕ダビドの聖なる葡萄の木についてあなたに感謝します。それはあなたがあなたの僕〔子〕イエスを通して私たちに知らせたものです。栄光はあなたに永遠にありますように。」裂かれたパンについて。「私たちの父よ。あなたがあなたの僕〔子〕イエスを通して私たちに知らせた生命と知識について、あなたに感謝します。栄光はあなたに永遠にありますように。山々の上に散らされていたこれらのパンが集められて一つにされたように、あなたの教会が地の果てからあなたの御国へと集められますように。栄光と力はイエス・キリストによって永遠にあなたのものだからです。」……（中略）……

10 満ち足りた後に（＝満腹した後に）、次のように感謝の祈りを捧げなさい。

「聖なる父よ。あなたが私たちの心の内に住ませて下さったあなたの聖なる名について、またあなたがあなたの僕〔子〕イエスを通して私たちに知らせた知識と信仰と不死についてあなたに感謝します。すべてを支配される主よ。あなたはあなたの御名のゆえに万物を創造されました。あなたは人間に食物を与えて楽しませて下さいました。それは、人間があなたに感謝して祈るためです。しかし、私たちにはあなたの僕〔子〕を通して霊的な食物と飲み物そして永遠の生命を賜りました。あなたは力ある方

ですので、何よりもまず、あなたに感謝の祈りを捧げます。栄光はあなたに永遠にありますように。

主よ、すべての悪から救い (cf.マク6:13)、あなたの愛において完全にするために、あなたの教会を顧みて下さい。そして教会を聖別して、四方から、あなたが準備なさった御国へと導き集めて下さい (cf.マク24:31)。力と栄光は永遠にあなたのもだからです。恵みが来ますように。この世が過ぎ去りますように。ダビドの神にホザナ(マク21:9)。もし聖なる者であるならば来なさい。聖なる者でなければ悔い改めるように。マラナタ (cf.1コリ16:22)。アーメン。」 [『中世思想原典集成』第1巻所収訳文より]

奉献文の祖型のひとつ

▶神のわざへの感謝と神への賛美 (栄唱)

▶「創造⇒キリストによる救い⇒神の国の完成」までを生きる教会の姿と信仰を表現

## 2. 現行のミサの式次第・式文に示される神の民の自覚 (主な例)

\*叙唱前の対話句と叙唱の導入

司祭「賛美と感謝をささげましょう」 会衆「それはとうとい大切な務め (です)」

司祭「……あなたに感謝をささげることは、まことにとうとい大切な務め (です)」

\*聖別句における「新しい永遠の契約」の告知

\*「信仰の神秘」に対する会衆の応唱 (記念唱) の二つに特に示される 主の来臨への待望

「主よ、あなたの死を告げ知らせ、復活をほめたたえます。再び来られるときまで。」

「主よ、このパンを食べ、この杯を飲むたびに、あなたの死を告げ知らせます。

再び来られるときまで。」

(一コリント11・26参照 上述)

\*神の民としての完成を願う祈り (第2奉献文より)

「キリストの御からだと御血にあずかるわたしたちが、聖霊によって一つに結ばれますように」

▶今の聖体による一致、完成における一致一致

「あなたの民をまことの愛で満たしてください」

「今ここに集うわたしたちを……永遠のいのちにあずからせてください」 など

\*主の祈りの副文

司祭「いつくしみ深い父よ、すべての悪からわたしたちを救い、世界に平和をお与えください。

あなたのあわれみに支えられて、罪から解放され、すべての困難に打ち勝つことができます

ように。わたしたちの希望、救い主イエス・キリストが来られるのを待ち望んでいます。」

会衆：「国と力と栄光は永遠にあなたのもの。」

\*繰り返される式次第の要素が示すこと

**あいさつ**

旧約の例：神の民の間でのあいさつ句：ルツ2・4

「主があなたたちと共におられますように。」 「主があなたを祝福してくださいますように。」

▶神がともにおられること、神の祝福を受けている民であることをともに確認し合う

パウロの手紙の初めと終わりのあいさつ

「わたしたちの父である神と主イエス・キリストからの恵みと平和が、あなたがたにあるように。」

(ローマ1・7ほか)

→式文「主イエス・キリストによって、神である父からの恵みと平和が皆さんとともに」

「主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがた一同と共にあるように。」

(二コリント13・13)

→式文「主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが皆さんとともに」

「わたしたち主イエス・キリストの恵みがあなたがたの霊と共にあるように」 (ガラテヤ6・18)

## ミサの式次第でこのあいさつがあるところ

開祭	: はじめの挨拶	(集会の主)
ことばの典礼	: 福音朗読の前のあいさつ	(福音の主)
感謝の典礼	: 叙唱前の対話句のはじめ	(奉献の主)
	: 平和のあいさつのはじめ	(聖体におられる平和の主)
閉祭	: 派遣の祝福のはじめ	(派遣の主)

## アーメン

「アアメン」「たしかに、まことに、ほんとうに」⇐ 根底にある神のエメト (真理・真実・誠)  
イエス自身が大切に告げたことば「はっきり言うておく」 (新共同訳)

▶ 典礼での「アーメン」の役割 = 信仰告白・賛美・願いへの神の民としての同意の宣言

「ほんとうに」そう信じます/そう賛美します/そうなりますように。

▶ 共同体の信仰宣言・祈りを完成させ、神にささげ、人々にも示す

## 主日ミサの場合の会衆の「アーメン」の箇所

開祭	① 「父と子と聖霊のみ名によって」「アーメン」
	② 神のゆるしを願う祈りの応唱
	③ 栄光の賛歌の結び
	④ 集会祈願の結びの応唱
ことばの典礼	⑤ 信仰宣言の結びの
	⑥ 共同祈願への結びの応唱
感謝の典礼	⑦ 奉納祈願の結びへの応唱
	⑧ 奉献文の結びの栄唱への応唱
	⑨ 教会に平和を願う祈りの結び
	「あなたはまことのいのち、すべてを導かれる神、世々としえに」「アーメン」
	⑩ 聖体拝領のときの拝領者の応唱「キリストの御からだ」「アーメン」
	⑪ 拝領祈願の結びへの応唱
閉祭	⑫ 派遣の祝福 ※ (前に荘厳な祝福があるときは「アーメン」×3を含む) 「全能の神、父と子と聖霊の祝福が皆さんの上にありますように」「アーメン」

## おわりに) 根底にある神の民のあり方・使命を告げる聖書

### 創世記12・1

1主はアブラムに言われた。「あなたは生まれ故郷、父の家を離れて、わたしが示す地に行きなさい。

2わたしはあなたを大いなる国民にし、あなたを祝福し、あなたの名を高める。祝福の源となるように。

### 創世記17・1-6

1アブラムが九十九歳になったとき、主はアブラムに現れて言われた。「わたしは全能の神である。あなたはわたしに従って歩み、全き者となりなさい。2わたしは、あなたとの間にわたしの契約を立て、あなたをますます増やすであろう。」3アブラムはひれ伏した。神は更に、語りかけて言われた。

4「これがあなたと結ぶわたしの契約である。あなたは多くの国民の父となる。」

### エフェソ1・3—10

3わたしたちの主イエス・キリストの父である神は、ほめたたえられますように。神は、わたしたちをキリストにおいて、天のあらゆる霊的な祝福で満たしてくださいました。4天地創造の前に、神はわたしたちを愛して、御自分の前で聖なる者、汚れのない者にしようと、キリストにおいてお選びになりました。……7わたしたちはこの御子において、その血によって贖われ、罪を赦されました。これは、神の豊かな恵みによるものです。……10こうして、時が満ちるに及んで、救いの業が完成され、あらゆるものが、頭であるキリストのもとに一つにまとめられます。天にあるものも地にあるものもキリストのもとに一つにまとめられるのです。

▶ 新約の神の民とは キリストにおいて祝福で満たされた民

神に賛美と感謝をささげつつ、キリストにおけるすべての一致、完成を目指して

主の道を共に歩む者・旅する者 その「シノダリティ」の具体的な、営みとして典礼がある